Annual Report 2014

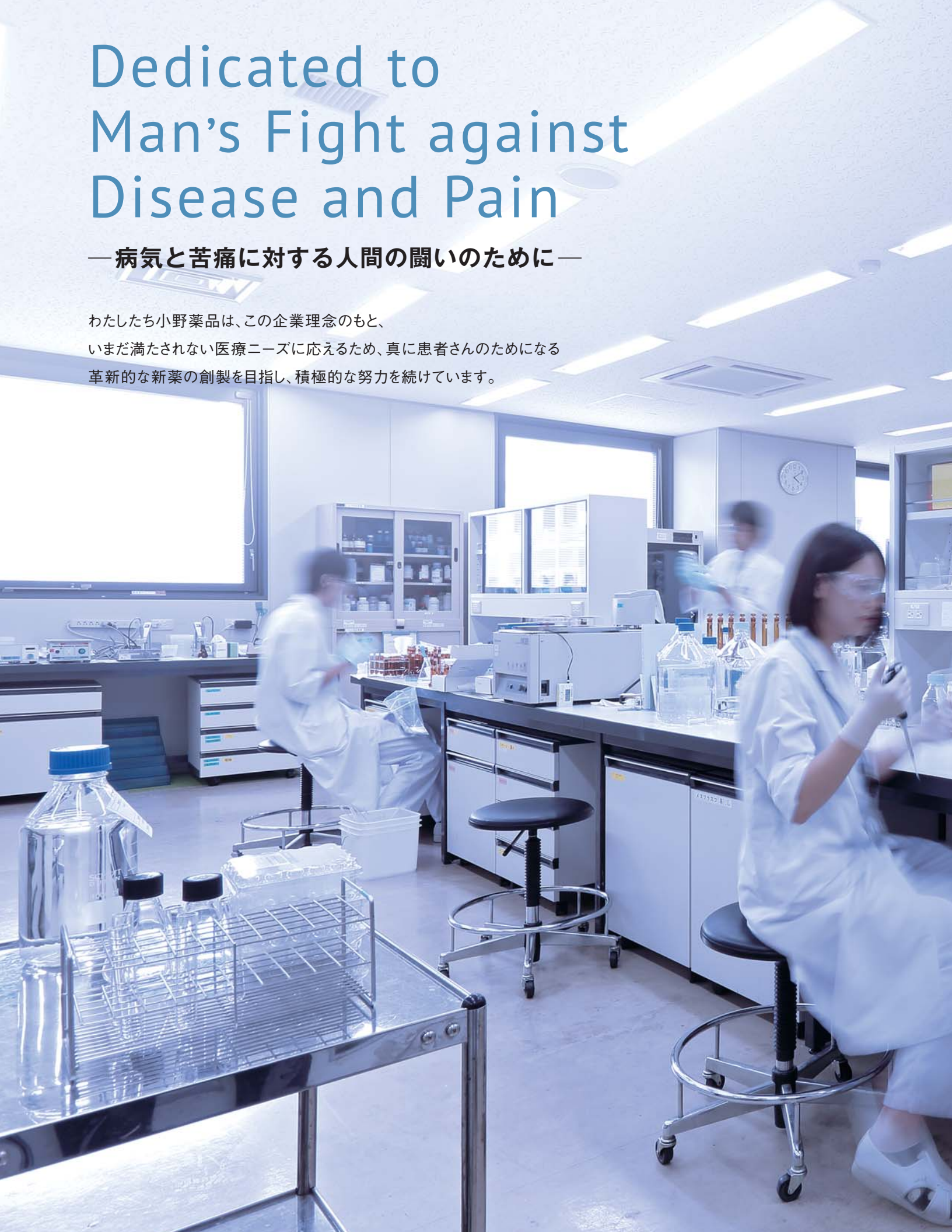
アニュアルレポート 2014年3月期

小野薬品工業株式会社

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

―病気と苦痛に対する人間の闘いのために―

わたしたち小野薬品は、この企業理念のもと、
いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる
革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けています。



Contents

連結財務ハイライト	02	開発品の主な進捗状況	18	連結財政状態計算書	30
トップ・メッセージ	04	営業	20	連結損益計算書	32
ミッション	06	生産	22	連結包括利益計算書	33
主要製品紹介	08	コーポレート・ガバナンス	23	連結持分変動計算書	34
事業活動への思い	12	CSR活動	24	連結キャッシュ・フロー計算書	35
研究開発	14	財務概況	28	会社の概況	36

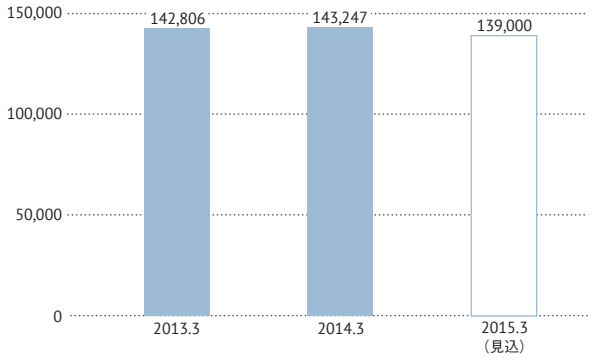
Financial Highlights

連結財務ハイライト

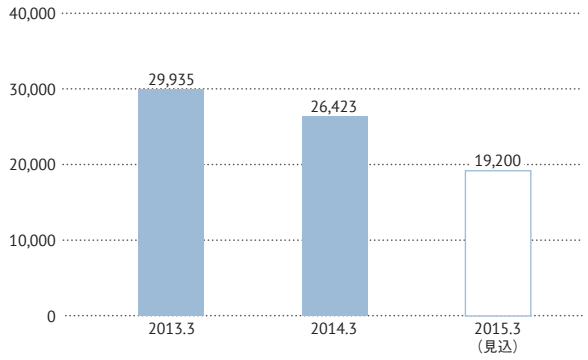
	2012.3 (日本基準)	2013.3 (日本基準)	2013.3 (IFRS)	2014.3 (IFRS)	2014.3 (IFRS)
				百万円	千米ドル
経営成績					
売上高／売上収益	¥145,779	¥145,393	¥142,806	**¥143,247**	**$1,404,382**
研究開発費	44,383	45,441	44,768	**44,413**	**435,422**
営業利益	37,904	31,921	29,935	**26,423**	**259,049**
当期純利益／当期利益(親会社の所有者帰属分)	24,361	24,120	22,919	**20,350**	**199,510**
財政状態					
総資産／資産合計	436,414	455,573	475,068	**485,962**	**4,764,333**
純資産／資本合計	400,968	423,291	442,542	**451,996**	**4,431,333**
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,635	15,662	18,992	**28,422**	**278,647**
投資活動によるキャッシュ・フロー	(133)	7,170	4,365	**6,926**	**67,902**
財務活動によるキャッシュ・フロー	(19,073)	(18,847)	(19,372)	**(19,636)**	**(192,510)**
1株当たり情報				円	米ドル
当期純利益／基本的当期利益	229.78	227.51	216.18	**191.96**	**1.88**
純資産／親会社の所有者に帰属する持分	3,753.04	3,961.55	4,134.75	**4,222.19**	**41.39**
配当金	180.00	180.00	180.00	**180.00**	**1.76**
財務指標等					
自己資本比率／親会社所有者帰属持分比率(%)	91.2	92.2	92.3	**92.1**	
ROA (%)	9.4	7.6	7.1	**6.1**	
ROE (%)	6.2	5.9	5.3	**4.6**	
配当性向(%)	78.3	79.1	83.3	**93.8**	
従業員数(人)	2,754	2,807	2,807	**2,858**	

*日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2014年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル＝102円で換算しています。
*2014年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しています。

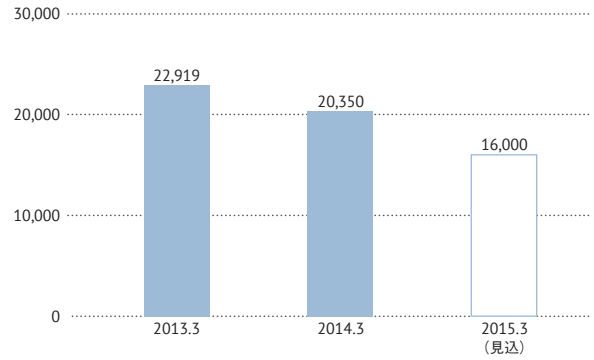
売上収益（百万円）



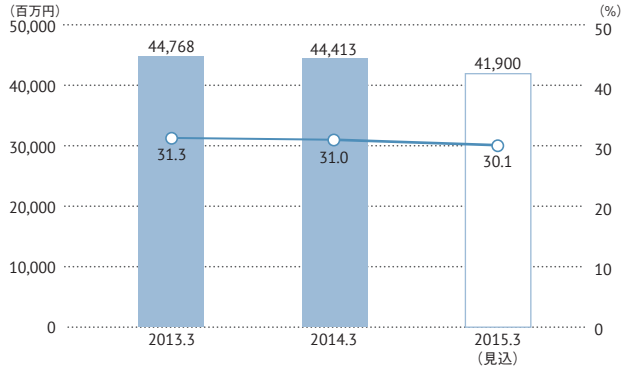
営業利益（百万円）



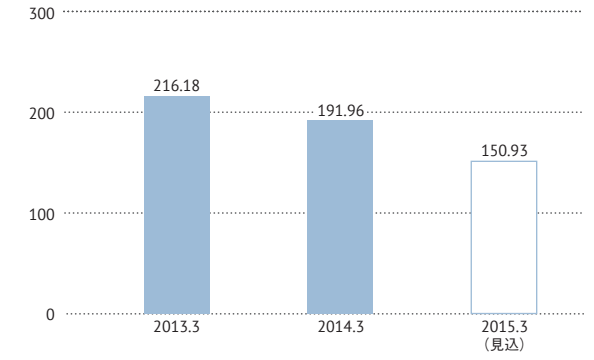
当期利益（親会社の所有者帰属分）（百万円）



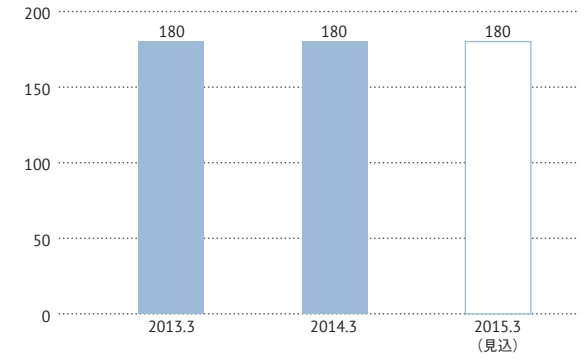
研究開発費／対売上収益比率（百万円/%）



基本的1株当たり当期利益（円）



1株当たり配当金（円）



和文アニュアルレポートに掲載している連結財務諸表につきましては、監査の対象とはなっておりません。
また、連結財務諸表注記は、和文アニュアルレポートにおいては省略しています。

Top Message
トップ・メッセージ

独自の創薬手法で画期的な新薬の創出を目指す

当社では、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、社員全員が一丸となって努力を重ねています。

当社は、医療用医薬品に特化した研究開発型製薬企業であり、新薬の創製に資源を集中して革新的な医薬品を創出するとともに、世界中から有望な新薬候補化合物を取り入れ、開発を進めていくビジネスモデルを採っています。

創薬においては、これまでの研究から培った技術やノウハウを生かし、今後とも当社の強みを発揮できる領域や、バイオ医薬品など当社が保有する遺伝子資産を有効に活用できる領域での医薬品創製を進めるとともに、いまだ満たされない医療現場のニーズに即した領域にも取り組んでいます。

また、創薬力のさらなる向上を目指した外部の研究機関などとの研究提携や、国内外の製薬企業やバイオベンチャー企業から新薬候補化合物を導入するライセンス活動といった戦略的提携も、積極的に推進しています。

そして当社は、「真に患者さんのためになる医薬品」を継続的に開発し、上市することで、当社の社会的存在価値を一層高め、世界市場に挑戦していく所存です。

代表取締役社長　相良　暁

常に高い倫理観に基づいて行動します

当社は、人の生命にかかわる医薬品を取り扱う製薬企業としての責任を深く自覚し、法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいて行動すべく、コンプライアンスの一層の強化に努めています。

持続的な成長と企業理念の実現のためにさまざまな課題に積極的に取り組みます

医薬品業界においては、新薬創製の成功確率が年々低下し、世界的に研究開発コストが増大しています。また、医療制度改革による種々の医療費抑制政策が進展するなど、厳しい環境が続いています。このようななか、現状における課題に対して次のとおり取り組んでいきます。

開発パイプラインの拡充

持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出していくことが不可欠です。そのために、世界最先端の技術を活用した、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速する取り組みを進めるとともに、積極的なライセンス活動を通じて、既存品および開発パイプラインも考慮した事業戦略性／効率性の高い新薬候補化合物、あるいは医療ニーズの高い疾患に対する魅力ある新薬候補化合物を引き続き導入していくことにより、今後も継続的な新薬上市に繋がる開発パイプラインの拡充に努めていきます。また拡充した開発パイプラインのPOC（Proof of Concept: 概念実証）を早期に確立し、創薬のスピードアップにも取り組みます。

海外展開の推進

自社創製の新薬を世界中にお届けできるよう、海外での臨床開発を推進するとともに、海外提携企業への導出を通じ、自社創製化合物の早期の上市を目指してグローバルな事業展開を進めます。また、抗がん剤などスペシャリティー製品については、自社販売を見据えて海外現地拠点の強化に取り組むとともに、海外での事業展開を見据えた人財育成を推進していきます。

企業基盤の強化

グローバルレベルでの競争力を高めていくため、人財の育成と活性化に努めます。また、多様性の向上や社内外の連携強化により、さまざまな環境変化へのスピーディーな対応とイノベーションの実現を図っていきます。さらに、企業倫理と行動規範に基づいたCSR活動の一層の推進に取り組みます。

利益配分に関する基本方針について

利益配分につきましては、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策の一つと位置付け、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた成果の配分を行っていきたいと考えています。

Our Mission

ミッション

小野薬品 企業理念

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

―病気と苦痛に対する人間の闘いのために―

創薬の拠点である水無瀬研究所に1968年（昭和43年）に
建設された記念の石碑には、小野薬品の企業理念
「Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain
（病気と苦痛に対する人間の闘いのために）」の文字が刻まれています。
初代 伏見屋市兵衛が大阪道修町に薬種商の看板を掲げたのは
享保2年（1717年）のこと。当社は創業以来、今日まで薬業一筋に邁進し、
約300年にわたる歴史を築いてきました。そして、これからも変わることなく、
石碑に刻まれた企業理念を大切にし、ほぼ3世紀にわたる
歴史のなかで継承されてきた独創的新薬の創製にかける情熱と、
これまでに培われた技術やノウハウを生かし、人々の健康な生活に役立つ
医薬品の開発に努め、社会に貢献していきたいと願っています。

小野薬品がめざす姿

熱き挑戦者たちであれ

いままでにない革新的な医薬品を届けるという
強い意志を持ち、個々の力を結集して、
全力で挑戦することが、私たちに託された使命です。
そして私たち小野は、患者さんとご家族、
医療担当者と共に、病気や苦痛と闘う、
誰よりも熱き挑戦者であり続けます。

小野薬品 行動原則

小野は、世界を変えるチームとなる。
小野は、壁にぶつかった時ほど奮い立つ。
小野は、矜持を胸に行動する。

わたしたちは、世界の人々が待つ希望の担い手になることを目指し、医薬品に携わる者としての誇りを持って行動します。

Key Product Profiles
主要製品紹介

２型糖尿病治療剤
「グラクティブ錠」
消化管ホルモンの一つであるインクレチンを分解する酵素（DPP-4）を選択的に阻害することにより、血糖値依存的にインスリン分泌を増強し、またグルカゴン分泌を低下させ肝臓での糖新生を抑制し、血糖値をコントロールする作用機序を持った経口２型糖尿病治療剤です。

2013年度売上高:357億円

骨粗鬆症治療剤
「リカルボン錠」
日本で初めて創薬された経口ビスホスホネート系骨粗鬆症治療剤です。極めて強力な骨吸収抑制作用を有し、日本人骨粗鬆症患者におけるプラセボ（偽薬）に対する骨折抑制効果を検証できた初めてのビスホスホネート系薬剤です。2011年９月には、１日１回服用の1mg製剤に加え、４週に１回服用する50mg製剤を発売しました。

2013年度売上高:111億円

抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤
「イメンドカプセル／プロイメンド点滴静注用」
世界初の選択的ニューロキニン１（NK1）受容体拮抗剤で、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐を軽減します。2011年12月には、イメンドカプセルのプロドラッグ体である「プロイメンド点滴静注用150mg」を発売しました。

2013年度売上高:88億円

過活動膀胱治療剤
「ステーブラ錠」
ムスカリン受容体サブタイプのM3およびM1に対して選択的な拮抗作用を示す新しい抗コリン剤で、普通錠および口腔内崩壊錠（OD錠）の剤型があります。膀胱平滑筋の過剰な収縮を抑えることにより、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿および切迫性尿失禁を改善します。

2013年度売上高:65億円

アルツハイマー型認知症治療剤
「リバスタッチパッチ」

脳内の神経伝達物質であるアセチルコリンの分解酵素の働きを抑えることにより脳内アセチルコリン量を増加させ、神経の情報伝達を促進することで、記憶障害（物忘れ）や見当識障害（時間や場所の認識の問題）などの認知症の症状進行を抑える、貼付タイプのアルツハイマー型認知症治療剤です。

2013年度売上高:64億円

関節リウマチ治療剤
「オレンシア皮下注」

関節リウマチの発症に関与するT細胞を活性化するシグナルを阻害することでサイトカインの分泌を抑制し、関節の炎症を沈静化する薬剤で、2013年8月に発売しました。

2013年度売上高:8億円

2型糖尿病治療剤
「フォシーガ錠」

腎尿細管でのグルコースの再吸収を調整する働きを持つ輸送体SGLT2を阻害することで、血液中の過剰なグルコースを尿とともに体外へ排出させ血糖を低下させる薬剤であり、インスリンを介さずに空腹時血糖および食後の高血糖を改善する経口2型糖尿病治療剤です。

2014年5月発売

末梢循環障害治療剤
「オパルモン錠」

経口プロスタグランジンE$_1$誘導体製剤です。末梢の循環障害に伴う手足のしびれや痛み、冷感などの症状を改善する薬剤で、閉塞性血栓血管炎に伴う虚血性諸症状や、後天性の腰部脊柱管狭窄症に伴う自覚症状および歩行能力を改善します。

2013年度売上高:325億円

Key Product Profiles

気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
「オノンカプセル」

気管支喘息の基本的病態（気道炎症、気道収縮、気道過敏性亢進など）やアレルギー性鼻炎の病態形成に深く関与しているロイコトリエンの受容体拮抗剤で、気管支喘息に伴う咳や息苦しさなどの症状を改善し、またアレルギー性鼻炎に伴うくしゃみ・鼻水・鼻づまりなどの症状を改善します。

2013年度売上高:135億円

慢性膵炎・術後逆流性食道炎治療剤
「フオイパン錠」

慢性膵炎や術後逆流性食道炎の発症原因である膵臓の酵素を阻害し、膵臓の炎症による腹痛、吐き気、お腹が張る感じ、背中の痛みを和らげたり、胃の手術をした後の胸やけ、逆流感、しみる感じなどの症状を和らげたりする薬剤です。

2013年度売上高:80億円

糖尿病性末梢神経障害治療剤
「キネダック錠」

日本初のアルドース還元酵素阻害剤です。高血糖状態で活性化されるアルドース還元酵素を阻害することにより、糖尿病性神経障害の発症に関与している神経内のソルビトールの生成を抑制し、糖尿病性末梢神経障害による手足のしびれや痛み、こむら返りなどの症状を和らげ、病態の進展を抑える薬剤です。

2013年度売上高:74億円

気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
「オノンドライシロップ」

気管支喘息の基本的病態（気道炎症、気道収縮、気道過敏性亢進）に深く関与しているロイコトリエンの受容体拮抗剤で、小児の気管支喘息患者さんにもご使用いただけるようドライシロップ製剤として開発した薬剤です。2011年12月には、アレルギー性鼻炎の効能追加の承認を取得しました。

2013年度売上高:69億円

手術時、手術後および心機能低下例における頻脈性不整脈治療剤
「注射用オノアクト」

主に心臓に存在するβ1受容体を選択的に遮断する短時間作用型β1遮断剤で、手術時や手術後に発現する心拍数の増加を抑える薬剤です。2013年11月には、心機能低下例における頻脈性不整脈（心房細動、心房粗動）の効能追加の承認を取得しました。

2013年度売上高:44億円

全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害治療剤
「注射用エラスポール」

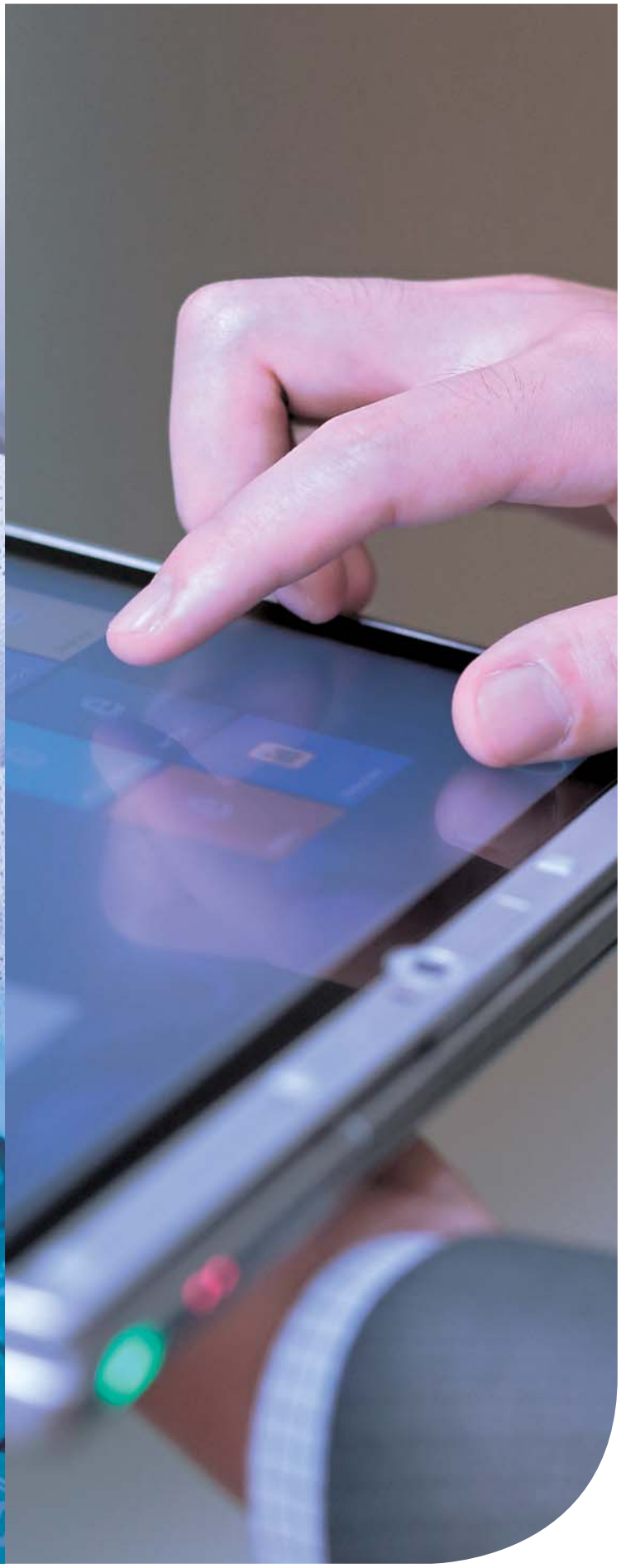
世界初の選択的好中球エラスターゼ阻害剤です。肺の機能を直接改善する治療薬はいまだなく、手術や感染症などの生体への侵襲による全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の治療剤です。

2013年度売上高:35億円

願いをこめた新薬を、
世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、
新薬開発型製薬企業として、世界に通用する独創的な医薬品を
一日でも早く患者さんのもとにお届けすることができるように、
研究・開発・生産・営業など、全部門・全社員がしっかりと連携し、
それぞれが信念と情熱を持って取り組んでいます。

FOY
100



Research & Development
研究開発

独自の創薬手法と国内外の最先端技術を融合させた独創的な医薬品の創製を目指します

当社は、これまで克服されていない病気や、
いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、
独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

研究開発理念

**真に患者さんのためになる
医薬品を開発して社会に貢献する**

研究

研究過程において各種標的に対する作用を持つ化合物をライブラリーとして蓄積し、そのなかから疾患や治療に結びつく薬剤を探し出す「化合物オリエント」という創薬手法で独創的な新薬の創製を行っています。
さらに、新たな産学連携の研究ネットワーク「オリエンタム・イノベーション®」を構築するなど、独自の創薬手法と国内外のバイオベンチャーや大学・研究機関が有する世界最先端の知見や技術を融合させるオープン・イノベーションにより、世界中の患者さんのためになる独創的新薬の創製を目指しています。

基礎研究と臨床開発の橋渡しに必要な機能を集約させたトランスレーショナルメディシンセンターを組織し、開発継続の可否判断を迅速に行い、創薬開始から有効性と安全性の確立までの期間短縮を図っています。

臨床開発

世界規模での新薬開発をスピーディーに行うために、国際共同治験や海外臨床試験成績の相互利用を進めています。

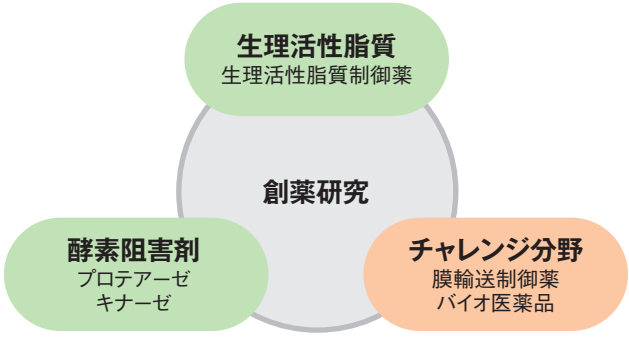
ノウハウを生かした独創的新薬の創製

当社の創薬研究において、生理活性脂質および酵素阻害剤領域は、これまでのプロスタグランジン・ロイコトリエン研究や酵素阻害剤研究などで培った技術やノウハウを生かすことができる得意領域であり、生理活性脂質制御薬やプロテアーゼ阻害剤・キナーゼ阻害剤などの創製研究を進めています。

また、チャレンジ分野では、神経科学分野の研究で培ったノウハウやゲノム研究で得た資産を有効に活用しつつ、イオンチャネルやトランスポーターなどの膜輸送の制御薬やバイオ医薬品などの新たな領域での創製研究にも積極的に挑戦しています。

いずれの領域および分野でも、国内外の世界最先端の知見や技術を活用しながら研究開発を進め、創薬研究の効率と新薬創製の成功確率の向上に努めています。

創薬研究のターゲット領域



知恵と技術を結集する研究体制

独創的新薬は研究者一人ひとりの挑戦しようとする意欲と自由な発想力から生まれます。研究者の意欲向上のために高く明確な目標設定を行い、自由な発想で研究を進めるために異なる先端技術を持つ各分野の研究員が枠組みにとらわれずプロジェクトチームを結成し、お互いが交流し、刺激しあえる体制を取っています。

創薬研究は、水無瀬研究所、筑波研究所、福井研究所の三つの拠点の連携のもとに行っています。これらの拠点では、遺伝子解析技術・メタボローム解析技術・X線結晶構造解析技術・高速合成技術・高速スクリーニング技術などを駆使して、効率的かつ迅速な新薬の創製に取り組んでいます。

筑波研究所

大学や研究機関と連携して、病気のもとになる物質の解析やそれを制御する化合物の探索研究、創製された化合物の体内動態を確認する研究に取り組んでいます。

福井研究所

化合物の安全性を確認する研究、原薬を供給するための量産化やコスト低減に関する研究に取り組んでいます。

水無瀬研究所

新しい化合物の合成研究、化合物の特徴や有効性を確認する研究、医薬品としての機能と品質を保証できる製剤にするための研究に取り組んでいます。

Research & Development

EUROPE

ONO PHARMA UK LTD.

〈導入・導出パートナー〉
ノバルティス ファーマ社（スイス）
ヘルシン社（スイス）
パイオン社（ドイツ）
セルヴィエ社（フランス）
メルク社（ドイツ）
Bial社（ポルトガル）

〈販売提携〉
アストラゼネカ社（英国）

〈創薬提携〉
エボテック社（ドイツ）
ゼンション社（英国）
バイオフォーカス社（英国）
スキルプロテインズ社（ドイツ）
ドメイン社（フランス）

The-K Twin Towers B-13F

KOREA

ONO PHARMA KOREA CO., LTD.

積極的な海外事業展開

抗がん剤など一部のスペシャリティー製品については、海外でも自社で販売していくことができるように、アジアから事業の基盤づくりに取り組みはじめており、2013年12月には、韓国のソウル特別市に当社100％出資子会社「韓国小野薬品工業株式会社」を設立しました。

韓国小野薬品工業株式会社は、以前から行っている提携パートナーへの既存品の販売支援活動に加え、一部のスペシャリティー製品については自社販売を行っていく予定です。

今後も、自社創製の新薬を世界中の患者さんにお届けできるよう、グローバルな事業展開のための海外現地拠点の強化を推進していきます。

スピードアップを目指した臨床開発体制

臨床開発においては、日本を中心として、米国では、現地法人のONO PHARMA USA, INC.（OPUS）内に、欧州では、現地法人のONO PHARMA UK LTD.（OPUK）内に臨床開発の拠点を設置し、両現地法人が当社の新薬候補化合物の海外臨床試験を積極的に推進しています。さらに、欧米にアジアを加えた海外での臨床開発にも積極的に取り組むなど、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った新薬を一日も早くお届けしたいという熱意を持って、グローバルな体制での臨床開発を推進しています。

また、2013年にはオンコロジー臨床開発企画部を組織するなど、当社の戦略分野の一つであるがん領域での開発体制をさらに強化し、開発のスピードアップにも取り組んでいます。

※主な提携先 =2014年8月4日現在

JAPAN

ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
(HEAD OFFICE)

〈導入・導出パートナー〉
大日本住友製薬
キッセイ薬品工業
アステラス製薬
杏林製薬
オンコセラピー・サイエンス社
Meiji Seika ファルマ社

NORTH AMERICA

ONO PHARMA USA, INC.

〈導入・導出パートナー〉
メルク社（米国）
ブリストル・マイヤーズ スクイブ社（米国）
カドモン社（米国）
オニキス社（米国）
アムジェン社（米国）
Valeant社（米国）

〈創薬提携〉
アレイ社（米国）
ローカス社（米国）
バイオシーク社（米国）
レセプトス社（米国）

オープン・イノベーション

オープン・イノベーションとは、国内外のバイオベンチャーや、大学および研究機関など、外部の画期的な創薬シーズや世界最先端の技術を積極的に利用する取り組みのことです。当社は、「オープン・イノベーション」という言葉が使われるようになるずっと以前から、外部の最先端技術や知見を利用した創薬活動を推進してきました。

これまでの実績として、米国アレイ社、ローカス社、バイオシーク社、レセプトス社、英国ゼンション社、バイオフォーカス社、ドイツ・エボテック社、スキルプロテインズ社、フランス・ドメイン社などと創薬提携を実施し、さまざまな疾患領域における革新的な新薬候補化合物の創製に取り組んでいます。

また、当社が見出した新規化合物を早期から大学や研究機関に提供し、医薬品としての使途をこれまで以上に迅速に探索する新しい形の産学連携の研究ネットワーク「オリエンタム・イノベーション®」を構築し、2014年3月には、その最初の取り組みとして東北大学および東京大学と新規生理活性脂質に関する研究提携契約を締結しました。 今後も、同様の取り組みを国内外で進めていきます。

積極的なライセンス活動の推進

新薬候補化合物の導入を目指したライセンス活動については、既存品および開発パイプラインも考慮した事業戦略性 / 効率性が高い化合物、あるいは医療ニーズの高い疾患に対する魅力がある化合物の導入を目指して引き続き積極的に活動し、継続的な新薬上市に繋がる開発パイプラインの拡充に努めています。 同時に、自社創製の新薬を世界中の患者さんにお使いいただけるよう、海外提携企業への導出活動にも注力しています。

2013年には、ポルトガルのBial社からパーキンソン病におけるレボドパ治療に伴う症状の日内変動（ウェアリングオフ現象）治療薬、米国Valeant社から褐色細胞腫治療薬の日本での独占開発販売権を獲得、さらに英国アストラゼネカ社と2型糖尿病治療剤（SGLT2阻害剤）に関する日本でのコ・プロモーション契約を締結し、2014年3月から共同販促を開始しました。

2010年以降、10個の新薬候補化合物を導入・販売提携するとともに、自社創製品を導出するなど、積極的なライセンス活動を推進し、開発パイプラインの拡充が着実に進んでいます。

Status of Development Pipeline

開発品の主な進捗状況（2014年8月4日現在）

国内開発品状況

製品名（開発コード）	予定効能	薬理作用等	開発ステージ				
			PⅠ	PⅡ	PⅢ	申請	
オパルモン錠 （OP-1206・α-CD）	閉塞性血栓血管炎、 腰部脊柱管狭窄症 （安定性改善製剤）	血管拡張作用	→	→	→	→	大日本住友製薬と 共同開発
オノアクト点滴静注用 150mg （ONO-1101）	術後頻脈性不整脈、 心機能低下例における 頻脈性不整脈（高含量製剤）	β_1遮断作用（短時間作用型）	→	→	→	→	自社
プロイメンド点滴静注用 （ONO-7847）/MK-0517	抗悪性腫瘍剤投与に伴う 悪心・嘔吐（小児）	ニューロキニン1受容体 拮抗作用	→	→	→		米メルク社から導入
リバスタッチパッチ （ONO-2540）/ENA713D	アルツハイマー型認知症 （用法変更）	コリンエステラーゼ阻害作用	→	→	→		ノバルティス社と 共同開発
オプジーボ点滴静注 （ONO-4538） /BMS-936558	腎細胞がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→	→		自社
オレンシア点滴静注用 （ONO-4164） /BMS-188667	若年性特発性関節炎	T細胞活性化抑制作用	→	→	→		ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発
オレンシア点滴静注用 （ONO-4164） /BMS-188667	ループス腎炎	T細胞活性化抑制作用	→	→	→		ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発
ONO-7057/ カルフィルゾミブ	多発性骨髄腫	プロテアソーム阻害作用	→	→	→		オニキス社から導入
ONO-2745/CNS 7056	全身麻酔	$GABA_A$受容体作動作用 （短時間作用型）	→	→	→		パイオン社から導入
ONO-7165 /EMD531444	非小細胞肺がん	腫瘍抗原MUC-1由来 ペプチドワクチン	→	→			独メルク社と 共同開発
ONO-7643/RC-1291	がん悪液質	グレリン様作用	→	→			ヘルシン社から導入
オプジーボ点滴静注 （ONO-4538） /BMS-936558	食道がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			自社
オプジーボ点滴静注 （ONO-4538） /BMS-936558	非小細胞肺がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			自社
ONO-1162/Ivabradine	慢性心不全	Ifチャネル阻害作用	→	→			セルヴィエ社から導入
ONO-5163/AMG-416	二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体作動作用	→	→			アムジェン社から導入
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	→				自社
ONO-7056/Salirasib	固形がん	Rasシグナル阻害作用	→				カドモン社から導入
ONO-7268MX1	肝細胞がん	ペプチドワクチン	→				オンコセラピー・ サイエンス社から導入
ONO-7268MX2	肝細胞がん	ペプチドワクチン	→				オンコセラピー・ サイエンス社から導入
ONO-2160/CD	パーキンソン病	レボドパプロドラッグ	→				自社
ONO-4053	アレルギー性鼻炎	プロスタグランジンD2受容体 拮抗作用	→				自社
ONO-2370/Opicapone	パーキンソン病	長時間作用型 COMT阻害作用	→				Bial社から導入

国外開発品状況

開発コード	予定効能	薬理作用等	開発ステージ				
			PⅠ	PⅡ	PⅢ	申請	
ONO-4538 /BMS-936558	腎細胞がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→	→		ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	非小細胞肺がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→	→		ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	悪性黒色腫	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→	→		ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	頭頸部がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→	→		ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	膠芽腫	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	びまん性大細胞型 B細胞リンパ腫	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	濾胞性リンパ腫	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	→	→			自社
ONO-4053	アレルギー性鼻炎	プロスタグランジンD2受容体 拮抗作用	→	→			自社
ONO-2952	過敏性腸症候群	TSPO(トランスロケーター プロテイン)拮抗作用	→	→			自社
ONO-9054	緑内障・高眼圧症	プロスタグランジン受容体 (FP/EP3)作動作用	→	→			自社
ONO-4538 /BMS-936558	固形がん (トリプルネガティブ乳がん、 胃がん、膵臓がん、 小細胞肺がん、膀胱がん)	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	大腸がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→	→			ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	肝細胞がん	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→				ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	慢性骨髄性白血病	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→				ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4538 /BMS-936558	C型肝炎	ヒト型抗ヒトPD-1 モノクローナル抗体	→				ブリストル・マイヤーズ スクイブ社へ導出
ONO-4059	B細胞リンパ腫	Bruton's tyrosine kinase (Btk)阻害作用	→				自社
ONO-8055	低活動膀胱	プロスタグランジン受容体 (EP2/EP3)作動作用	→				自社
ONO-8539	胃食道逆流症	プロスタグランジン受容体 (EP1)拮抗作用	→				自社
ONO-1266	門脈圧亢進症	S1P受容体拮抗作用	→				自社
ONO-4232	急性心不全	プロスタグランジン受容体 (EP4)作動作用	→				自社

Marketing
営業

的確な医薬品情報の提供・収集・フィードバックが医薬品の真価を高めます

いかに優れた医薬品であっても、医療の現場において正しく使われ、
病に苦しむ人々に届けられなければ価値がありません。
また、医薬品は人の生命に深く関わるものであり、的確な情報提供が何よりも重要です。
この大切な役割を担うのが医薬情報担当者であるMR（Medical Representative）です。
MRは、医療従事者を訪問し、医薬品の適正な使用方法の提供や、
医薬品の有効性および安全性に関する情報の提供や収集などの活動をします。
高い倫理観に基づいて医療従事者とともに医療の一端を担い、
患者さんの治療に役立つことで社会に貢献することがMRの使命です。

情報共有体制の構築

MRは、情報の提供だけに留まらず、患者さん一人ひとりの治療経過を通じ、当社の医薬品が真に患者さんやご家族の役に立っているのかについて、医療従事者と情報交換することも大切にしています。

MRが医療現場で収集した貴重な情報は、全社で共有される体制になっています。当社では、これまで得られた情報を集積・分析して作成した「製品別Q&A」をはじめ、安全性情報、プロモーション資材、学会・文献情報、共催セミナー情報などあらゆる情報を独自のMR支援サイトに掲載しています。そして、MR全員がタブレット端末を所持し、いつでも端末を通じて有用な情報にアクセスし、活用できるシステムを構築しています。また、MR全員が携帯するスマートフォンには、有用情報のタイムリーな発信だけでなく、薬剤の選択・組合せによる相互作用をただちに検索できる機能を搭載し、医療機関からのニーズに迅速に対応できる体制を構築しています。

最新の医薬品情報を医療現場に提供

医療技術は日々進歩しています。医薬品に関しても同様で、その最新情報を医療の現場にいち早く伝達するとともに、情報を交換できる場を提供することも、医薬品メーカーの役割の一つです。当社は国内で開催される各学会でのシンポジウムやセミナーに加え、地区ごとの研究会や講演会を通じての情報提供を積極的に行っています。また、WEBサイトを通じた疾患情報の発信やWEBライブセミナーなど、ITを活用した取り組みにも力を入れています。

さらに今後、専門性の高いがん領域での新製品の上市を見据え、がん領域を専属で担当する専門MRを設ける予定であり、大学や専門施設の専門医が求める高いニーズにも迅速に応えられる体制の構築を進めています。

医療施設での現場研修を実施　―患者さんやそのご家族の目線を大切に―

当社では、MRの成長のため、人への投資を積極的に拡大し研修体制を強化しています。当社の製品および周辺疾患に関する研修はもちろんのこと、患者さんとそのご家族のニーズを捉え、真に患者さんのためになる医薬品をお届けするために、医療機関などでの現場研修も行っています。

現在は、認知症、糖尿病、がんの専門施設において、当社のMRが患者さんやご家族、医療・介護関係者の方々と実際に触れ合い、そのなかで多くのことを学び、活動に生かしています。

特に認知症においては、MR全員が“認知症について正しい知識を持ち、認知症の方やご家族を応援し、誰もが暮らしやすい地域をつくっていくこと”を目的とした「認知症サポーター養成講座」を受講し、サポーターとして活動しています。さらに、認知症の方やご家族の喜び、医療従事者の方々の充実感につなげることを目的に、医療施設などにおいて認知症の方が制作された絵画や書道などの作品を、当社の認知症医療WEBサイト「笑顔とこころでつながる認知症」および本社ロビーで紹介する取り組み「ふれあいつながる作品展」も実施しています。

このような取り組みは医療機関からも賛同を得て、ご協力いただくことができています。

机上の学習だけでは手に入れられない経験を糧にして、患者さんとそのご家族の目線を大切にした、小野薬品のMRならではの営業活動につなげていきます。

Manufacturing
生産

安心してお使いいただける医薬品を安定的にお届けするために

医薬品はかけがえのない生命を守るもの。その医薬品の製造に携わるわたしたちは、品質が保証され安心してお使いいただけるお薬を患者さんの元にお届けするという使命を担っています。
当社では、製造に関わる全部門が互いに密接に協力し、常に高い倫理観と責任感を持って、当たり前のことを当たり前のこととして実践し、品質が保証されている医薬品を安定的に供給するために最大限の努力を続けています。

■生産体制の最適化
新たに上市が見込まれる製品の生産体制構築では販売時期や数量、製品の特性などを踏まえ、また上市済みの製品についてはさらなる効率化を図るために、生産体制の見直しおよび適切な設備投資を継続して行っています。

■品質保証
製造する全製品の外観検査や製造・試験に関する記録のチェック、有効性や安全性に関する情報などを通して、品質が保証されていることが確認できた製品のみをお届けしています。

■生産性の向上
製剤研究や合成研究など研究部門との連携を通じた原薬から製剤に至るまでのコストの精査、生産工程の自動化による省力化を推進し、生産性の向上に努めています。

■人財育成
生産に携わる者の専門教育、熟練技術者から若手への技術継承、グローバル化を見込んだ研修などを通して、人財の育成に努めています。

■リスク管理
医薬品の安定供給のために、生産拠点には自家発電装置を設置し、災害などによる停電にも対応できるよう、リスク管理体制を整えています。

高い品質と生産性を確立した生産拠点

当社は、生産拠点として静岡県と大阪府にGMP（医薬品の製造管理および品質管理に関する基準）に適合した工場を有しています。主力のフジヤマ工場は、1975年に静岡県富士宮市に創設以降、継続的に設備の改良・増強に努め、現在ではコンピュータで制御管理された製造設備を有しています。1999年には工場の敷地内に高機能の自動化設備を備えた大規模な注射剤製造工場、2009年には最新の製造設備を備えた固形剤製造工場を新設、さらに、新製品の開発段階から対応できる高活性・抗体医薬対応の製造設備を備えた注射剤製造ラインが2014年5月に完成しました。

注射剤製造工場は、国内だけでなく欧米のGMPもクリアできる高機能のハードと世界に通用するソフトを備えています。製造工程のあらゆる操作の指示および確認、データ収集、記録などにコンピュータを活用し、原材料搬入から製品搬出まで各工程でロボットを活用しています。また固形剤製造工場には、高速・高機能機を採用し、品質管理を徹底しています。

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンス

透明性の高い経営と企業倫理の遵守が企業価値を高めます

当社は、企業価値の向上を図るために、法令遵守はもとより、経営における透明性を高め経営管理機能を強化することが重要な課題であると考えています。

そのために、監査役（会）設置型の経営機構を採用し、取締役会および監査役会の機能強化を中心としたコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

取締役会については、機動性を高め、意思決定の迅速化を図ることに主眼を置き、適正な人数で構成されるよう努めています。また、2013年6月より、経営の健全性、業務執行の的確性の維持・向上を目的に専門的な知識や豊富な経験を有する社外取締役（2名）を招聘し、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を図っています。

業務執行に関する重要事項については、取締役社長以下、各部門を担当する取締役や執行役員、関連部門の責任者等で組織する「経営戦略会議」をはじめ、経営課題の重要性、内容に応じて担当取締役や担当執行役員等が主宰する会議において審議を行い、執行を決定するなど、相互牽制による監督機能にも配慮した適切な業務運営に努めています。なお、経営戦略会議については、監査役の出席、議事録の閲覧等を通じた監査の対象としています。

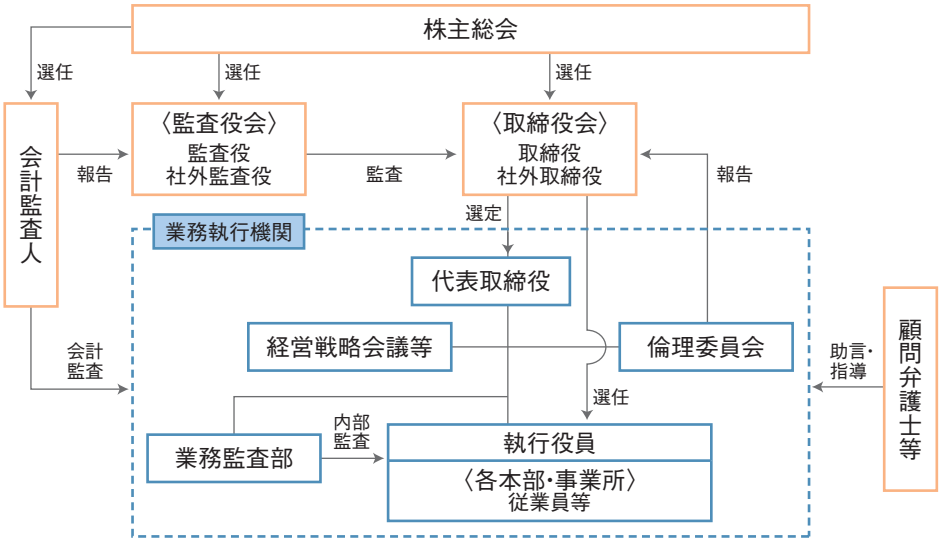
また、執行役員制度を取り入れることで、業務執行機能の強化を図りつつ、重要な業務執行については、継続的かつ安定的な事業運営を実現するために執行役員を兼務する取締役が直接関与するようにしています。

一方、監査役会は、構成する各監査役（4名）が取締役会およびその他重要な会議に出席するほか、取締役等から事業の報告を受け、聴取するなど、取締役の職務執行の監査を行っています。

また、社外監査役には弁護士と公認会計士がそれぞれ1名就任しており、客観的かつ専門的な視点から監査を行っています。

内部統制システムにつきましては、2006年5月9日の取締役会において、「会社の業務の適正を確保するための体制」を決議し、体制の整備を行い、その後も随時見直しを図りながら、業務上のコンプライアンスをはじめ内部統制全般の強化・充実に努めています。なお、社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、断固対決する姿勢で臨んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制図



Corporate Social Responsibility

CSR活動

企業理念と行動規範に基づき６つの重点領域を定め、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献します。

当社は、1717年の創業以来、今日まで薬業一筋に長い歴史を築いてきました。
これは「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもとに、
より有効でより安全な新薬の開発に真摯に取り組んできた努力が社会に評価された結果であると確信しています。
当社は、今後も国際的視野に立ち、患者さんにとって真に役立つ新薬の開発に全力を挙げて取り組み続けるとともに、
企業の社会性を自覚し、節度ある事業活動を進めていきます。
また、関係法規の遵守はもとより、全社員が高い倫理観をもって行動します。

＊ISO26000……ISO（国際標準化機構:本部ジュネーブ）が2010年11月に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格

小野薬品が取り組む重点領域

当社が定めている「小野薬品行動規範」は、高い倫理観に基づいた観点から企業のあるべき姿を示しており、事業活動のあらゆる分野において、すべての人々の人権を尊重して行動し、法令を遵守し、社会との公正な関係の保持に努めることが謳われています。

当社は、この「小野薬品行動規範」をCSR経営の基本に掲げ、その内容とISO26000で提示されている「7つの中核課題」を照らし合わせて、当社が取り組むべきCSR活動の6つの重点領域を定めています。

「コーポレート・ガバナンス」を土台とした「革新的な医薬品」「人財・人権」「環境」「公正な事業慣行」「社会」を重点領域と定めて活動し、取り組みについての情報を開示することで、ステークホルダーに対する説明責任を果たしていきます。

コーポレート・ガバナンス

企業価値向上のために、企業倫理を遵守するとともに、経営管理機能を強化することにより、経営における透明性を高めています。

●23ページ「コーポレート・ガバナンス」に詳細を記載しています。

革新的な医薬品

独自の創薬手法と国内外の最先端技術を融合させ革新的な医薬品創製を進めるとともに、医療ニーズの高い疾患に対する新薬候補化合物の導入を目指したライセンス活動にも注力しています。また、グローバルな体制での臨床開発と、開発のスピードアップにも取り組んでいます。

●14～17ページ「研究開発」に詳細を記載しています。

環境

環境に対する企業の社会的責任を認識し、事業活動のあらゆる分野において、環境に配慮した活動で豊かな地球環境実現に向けて努力しています。全社員参加のもとで、環境問題の理解に努め、活動を推進しています。

- 環境指針および環境自主行動計画の策定
- 環境委員会を中心とした環境マネジメント推進体制の構築
- 具体的な活動目標設定による継続的な環境保全活動
- 生産拠点におけるISO14001に準拠した環境マネジメントシステムの構築

Corporate Social Responsibility

公正な事業慣行

医療関係者、取引先および政治・行政などとの健全、公正かつ透明な関係を確立・保持するため、当社の行動規範に基づく社員への教育を徹底し、コンプライアンスの強化に努めています。

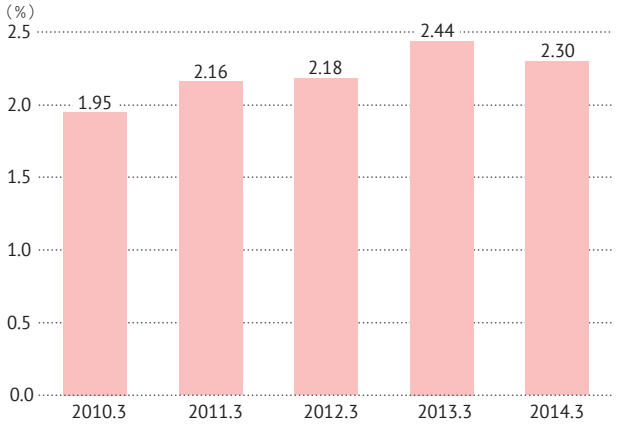
- コンプライアンス推進体制の確立および活動基本指針や行動基準の制定
- 透明性ガイドラインに基づいた情報公開
- 不正・腐敗行為防止のための周知徹底研修実施
- 研究・開発における倫理的配慮
- 購買取引規定策定などによるCSR調達活動の推進

人財・人権

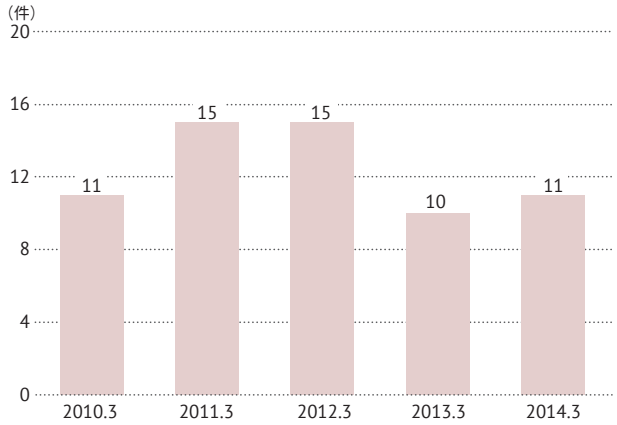
「企業は人なり」と考え、一人ひとりの能力の啓発と失敗をおそれない前向きな取り組みを積極的に支援し、個人の能力が最大限に発揮され、企業と社員が共生できる社内環境づくりと安全衛生の取り組みを推進しています。また、人権が尊重される社会を大切にし、社の内外を問わず人種、国籍、民族、性別、年令、宗教、信条、思想、学歴、障害、疾病等による差別の無い企業を目指しています。

- 教育研修制度の充実
- 働きやすい職場づくりのための雇用制度の充実
- 安全かつ衛生的な職場環境の構築
- 積極的な障がい者雇用
- 労働安全衛生活動

障がい者雇用率の推移



労災事故の発生件数



社会

真に患者さんのためになる医薬品を一途に追求し開発することで、社会的存在価値を高めていきます。また、常に誠実な姿勢で社会に接し、地域企業市民として社会との調和を取って行動します。

- 清掃活動や消防活動、障がい者支援などコミュニティへの参画
- 特別支援学校の実地研修受け入れ
- インターネットを通じた病気と治療についての情報発信
- 学生を対象にした出前授業の実施
- 寄附講座の開設
- 健康と福祉への貢献を目指した医学研究財団の運営

当社は『CSR報告書2013』を制作して当社WEBサイトに掲載し、これらの取り組みについての詳細をご報告しています。
『CSR報告書2014』は本年９月に掲載予定です。
http://www.ono.co.jp/jpnw/csr/kankyou.html

Financial Section
財務概況

2014年3月期の連結経営成績の概要は、
次のとおりであります。

事業領域

当社および当社の関係会社においては、医薬品に関する事業を行っております。

業績の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府や日銀が進めた景気刺激に向けた諸施策によって個人消費や企業収益に改善が見られ、景気はゆるやかながら回復基調で推移しました。

一方、国内医薬品市場では、新薬の成功確率が低下し研究開発費が増加するなか、後発医薬品使用促進策の浸透などによる医療費抑制政策の強化が進み、新薬開発型企業にとっては厳しい事業環境が続いています。

こうしたなかで当社グループは、革新的な新薬開発と製品価値のさらなる向上を目指し、世界最先端の知見・技術の活用も含めた研究開発体制の一層の強化と主要製品を中心とした学術情報活動の充実を図るとともに、経営全般にわたって効率化に努めましたが、当連結会計年度の連結業績は下記のとおりとなりました。

なお、当社は、2014年3月期決算から国際会計基準（IFRS）を導入し、IFRSベースの数字にて業績を発表しています。

	百万円	千米ドル
売上収益	￥143,247	$1,404,382
営業利益	26,423	259,049
当期利益（親会社の所有者帰属分）	20,350	199,510

売上収益の状況

売上収益は前連結会計年度比441百万円（4,324千米ドル）、0.3％増加の143,247百万円（1,404,382千米ドル）となりました。

- 講演研究会、説明会など、引き続き積極的な情報提供活動を進め、主要新製品の売上は増加しましたが、一方で後発品使用促進策の浸透もあり長期収載品の売上は減少となりました。
- 主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は前連結会計年度比2.6％増の357億円（349,676千米ドル）、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は前連結会計年度比45.0％増の111億円（108,804千米ドル）、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」、「プロイメンド点滴静注用」は合わせて前連結会計年度比10.5％増の88億円（85,833千米ドル）、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は前連結会計年度比63.8％増の64億円（62,667千米ドル）となりました。なお、2013年11月、心機能低下例における頻脈性不整脈（心房細動・粗動）の効能・効果追加の承認を取得しました術中術後の頻脈性不整脈治療剤「注射用オノアクト」は前連結会計年度比18.8％増の44億円（42,971千米ドル）、同年8月新発売の関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は8億円（7,814千米ドル）となりました。
- 主な長期収載品では、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は前連結会計年度比4.2％減の325億円（318,775千米ドル）、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は前連結会計年度比16.6％減135億円（132,039千米ドル）、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」は前連結会計年度比14.5％減の74億円（72,696千米ドル）となりました。

損益の状況

営業利益は前連結会計年度比3,512百万円（34,431千米ドル）、11.7％減少の26,423百万円（259,049千米ドル）、税引前当期利益は、前連結会計年度比3,543百万円（34,735千米ドル）、10.7％減少の29,458百万円（288,804千米ドル）となりました。

- 売上原価は前連結会計年度比1,268百万円（12,431千米ドル）、4.0％増加の32,747百万円（321,049千米ドル）となりました。
- 研究開発費は前連結会計年度比350百万円（3,431千米ドル）、0.8％減少の44,413百万円（435,422千米ドル）となりました。

- 販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、市販後調査費用やコンピュータおよびソフト関連投資に伴う償却費用が増加し、前連結会計年度比2,550百万円（25,000千米ドル）、7.1％増加の38,381百万円（376,284千米ドル）となりました。
- 当期利益（親会社の所有者帰属分）は、復興特別法人税が1年前倒しで廃止されたことに伴う繰延税金資産の取り崩しもあり、前連結会計年度比2,569百万円（25,186千米ドル）、11.2％減少の20,350百万円（199,510千米ドル）となりました。

連結キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、配当金の支払いによる支出などにより財務活動によるキャッシュ・フローが19,636百万円（192,510千米ドル）の支出となったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが28,422百万円（278,647千米ドル）、投資活動によるキャッシュ・フローが6,926百万円（67,902千米ドル）の収入となったことなどにより、前連結会計年度末の89,117百万円（873,696千米ドル）に比べて15,781百万円（154,716千米ドル）増加し、前連結会計年度比17.7％増の104,898百万円（1,028,412千米ドル）となりました。

■営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、28,422百万円（278,647千米ドル）の収入［前連結会計年度比9,430百万円（92,451千米ドル）の収入の増加］となりました。主な内訳としては、税引前当期利益29,458百万円（288,804千米ドル）、減価償却費が5,109百万円（50,088千米ドル）、棚卸資産の増加1,038百万円（10,176千米ドル）、法人税等の支払額10,862百万円（106,490千米ドル）がありました。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローは、6,926百万円（67,902千米ドル）の収入［前連結会計年度比2,561百万円（25,108千米ドル）の収入の増加］となりました。主な内訳としては、投資有価証券などの取得と売却および償還などにより差し引き20,173百万円（197,775千米ドル）の収入があり、一方では有形固定資産取得による支出5,816百万円（57,020千米ドル）、無形資産取得による支出7,041百万円（69,029千米ドル）などがありました。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において財務活動によるキャッシュ・フローは、19,636 百万円（192,510千米ドル）の支出［前連結会計年度比264百万円（2,588千米ドル）の支出の増加］となりました。主な内訳としては、配当金の支払い19,073百万円（186,990千米ドル）がありました。

設備投資

当連結会計年度の設備投資につきましては、生産設備の増強・維持投資（4,431百万円、43,441千米ドル）、研究設備の維持投資（1,698百万円、16,647千米ドル）、営業設備等の増強・維持投資（1,363百万円、13,363千米ドル）など、合計7,492百万円（73,451千米ドル）の投資を実施しました。

国際会計基準（IFRS）の任意適用について

当社グループは、2014年３月期決算から連結財務諸表および連結計算書類について、従来の日本基準に替えて国際会計基準（IFRS）を任意適用しています。

当社グループは、日本のみならず、米国、欧州、アジアなどグローバルな地域において、研究開発活動やライセンス活動などの事業展開を推進しています。また、当社の株主構成のうち外国人投資家の割合は、従来より高い水準が続いており、2014年3月末現在で約３割です。こうしたなか、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主、投資家や取引先などさまざまなステークホルダーの皆さまの利便性を図ることを目的として、IFRSを任意適用しました。

Consolidated Statement of Financial Position

連結財政状態計算書

	百万円		千米ドル（注）
資産	**2014**	2013	**2014**
流動資産			
現金及び現金同等物	**¥ 104,898**	¥ 89,117	**$ 1,028,412**
売上債権及びその他の債権	**42,240**	43,385	**414,118**
有価証券	**22,295**	40,022	**218,578**
その他の金融資産	**905**	1,000	**8,873**
棚卸資産	**24,232**	23,195	**237,569**
その他の流動資産	**958**	721	**9,392**
流動資産合計	**195,527**	197,439	**1,916,931**
非流動資産			
有形固定資産	**59,147**	55,781	**579,873**
無形資産	**22,690**	18,869	**222,451**
投資有価証券	**188,360**	179,640	**1,846,667**
持分法で会計処理されている投資	**1,008**	1,001	**9,882**
その他の金融資産	**5,913**	5,568	**57,971**
繰延税金資産	**9,853**	13,415	**96,598**
退職給付に係る資産	**905**	1,050	**8,873**
その他の非流動資産	**2,559**	2,303	**25,088**
非流動資産合計	**290,434**	277,628	**2,847,392**
資産合計	**¥ 485,962**	¥ 475,068	**$ 4,764,333**

（注）日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2014年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル＝102円で換算しています。

	百万円		千米ドル（注）
負債及び資本	**2014**	2013	**2014**
流動負債			
仕入債務及びその他の債務	**¥ 10,836**	¥ 9,007	**$ 106,235**
借入金	**508**	472	**4,980**
その他の金融負債	**846**	1,092	**8,294**
未払法人所得税	**4,303**	5,606	**42,186**
引当金	**1,063**	834	**10,422**
その他の流動負債	**10,264**	9,931	**100,627**
流動負債合計	**27,820**	26,942	**272,745**
非流動負債			
借入金	**468**	484	**4,588**
その他の金融負債	**17**	14	**167**
退職給付に係る負債	**3,945**	3,467	**38,676**
引当金	**87**	86	**853**
繰延税金負債	**1,002**	898	**9,824**
その他の非流動負債	**626**	634	**6,137**
非流動負債合計	**6,146**	5,584	**60,255**
負債合計	**33,966**	32,526	**333,000**
資本			
資本金	**17,358**	17,358	**170,176**
資本剰余金	**17,080**	17,080	**167,451**
自己株式	**(59,274)**	(59,231)	**(581,118)**
その他の資本の構成要素	**15,626**	8,198	**153,196**
利益剰余金	**456,809**	454,946	**4,478,520**
親会社の所有者に帰属する持分	**447,599**	438,351	**4,388,225**
非支配持分	**4,397**	4,190	**43,108**
資本合計	**451,996**	442,542	**4,431,333**
負債及び資本合計	**¥ 485,962**	¥ 475,068	**$ 4,764,333**

Consolidated Statement of Income

連結損益計算書

	百万円		千米ドル(注)
	2014	2013	**2014**
売上収益	**¥ 143,247**	¥ 142,806	**$ 1,404,382**
売上原価	**(32,747)**	(31,479)	**(321,049)**
売上総利益	**110,500**	111,328	**1,083,333**
販売費及び一般管理費	**(38,381)**	(35,831)	**(376,284)**
研究開発費	**(44,413)**	(44,763)	**(435,422)**
その他の収益	**338**	354	**3,314**
その他の費用	**(1,620)**	(1,153)	**(15,882)**
営業利益	**26,423**	29,935	**259,049**
金融収益	**3,107**	3,029	**30,461**
金融費用	**(76)**	(10)	**(745)**
持分法による投資利益	**4**	46	**39**
税引前当期利益	**29,458**	33,001	**288,804**
法人所得税	**(8,910)**	(9,811)	**(87,353)**
当期利益	**20,548**	23,190	**201,451**
当期利益の帰属:			
親会社の所有者	**20,350**	22,919	**199,510**
非支配持分	**198**	270	**1,941**
当期利益	**¥ 20,548**	¥ 23,190	**$ 201,451**

1株当たり当期利益:	円		米ドル(注)
基本的1株当たり当期利益	**¥ 191.96**	¥ 216.18	**$ 1.88**
希薄化後1株当たり当期利益	–	–	–

(注)日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2014年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル=102円で換算しています。

Consolidated Statement of Comprehensive Income

連結包括利益計算書

	百万円		千米ドル（注）
	2014	2013	**2014**
当期利益	**¥ 20,548**	¥ 23,190	**$ 201,451**
その他の包括利益:			
純損益に振り替えられることのない項目:			
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	**7,106**	15,107	**69,667**
確定給付制度の再測定	**596**	(1,859)	**5,843**
持分法適用会社のその他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動に対する持分	**3**	16	**29**
	7,706	13,264	**75,549**
純損益にその後に振り替えられる可能性のある項目:			
在外営業活動体の換算差額	**323**	344	**3,167**
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動	**6**	–	**59**
	330	344	**3,235**
その他の包括利益合計	**8,036**	13,608	**78,784**
当期包括利益合計	**28,584**	36,798	**280,235**
当期包括利益合計の帰属:			
親会社の所有者	**28,374**	36,514	**278,176**
非支配持分	**210**	283	**2,059**
当期包括利益合計	**¥ 28,584**	¥ 36,798	**$ 280,235**

（注）日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2014年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル＝102円で換算しています。

Consolidated Statement of Changes in Equity

連結持分変動計算書

	百万円							
	親会社の所有者に帰属する持分							
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分	非支配持分	資本合計
2012年4月1日現在残高	¥ 17,358	¥ 17,080	¥ (59,221)	¥ (7,688)	¥ 453,401	¥ 420,930	¥ 3,911	¥ 424,841
当期利益					22,919	22,919	270	23,190
その他の包括利益				13,595		13,595	13	13,608
当期包括利益合計	–	–	–	13,595	22,919	36,514	283	36,798
自己株式の取得			(10)			(10)		(10)
剰余金の配当					(19,083)	(19,083)	(4)	(19,088)
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				2,291	(2,291)	–		–
所有者との取引合計	–	–	(10)	2,291	(21,374)	(19,093)	(4)	(19,097)
2013年3月31日現在残高	**17,358**	**17,080**	**(59,231)**	**8,198**	**454,946**	**438,351**	**4,190**	**442,542**
当期利益					**20,350**	**20,350**	**198**	**20,548**
その他の包括利益				**8,023**		**8,023**	**12**	**8,036**
当期包括利益合計	–	–	–	**8,023**	**20,350**	**28,374**	**210**	**28,584**
自己株式の取得			**(43)**			**(43)**		**(43)**
剰余金の配当					**(19,083)**	**(19,083)**	**(3)**	**(19,086)**
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				**(595)**	**595**	–		–
所有者との取引合計	–	–	**(43)**	**(595)**	**(18,487)**	**(19,126)**	**(3)**	**(19,129)**
2014年3月31日現在残高	**¥ 17,358**	**¥ 17,080**	**¥ (59,274)**	**¥ 15,626**	**¥ 456,809**	**¥ 447,599**	**¥ 4,397**	**¥ 451,996**

	千米ドル（注）							
	親会社の所有者に帰属する持分							
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分	非支配持分	資本合計
2013年3月31日現在残高	**$ 170,176**	**$ 167,451**	**$ (580,696)**	**$ 80,373**	**$ 4,460,255**	**$ 4,297,559**	**$ 41,078**	**$ 4,338,647**
当期利益					**199,510**	**199,510**	**1,941**	**201,451**
その他の包括利益				**78,657**		**78,657**	**118**	**78,784**
当期包括利益合計	–	–	–	**78,657**	**199,510**	**278,176**	**2,059**	**280,235**
自己株式の取得			**(422)**			**(422)**		**(422)**
剰余金の配当					**(187,088)**	**(187,088)**	**(29)**	**(187,118)**
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				**(5,833)**	**5,833**	–		–
所有者との取引合計	–	–	**(422)**	**(5,833)**	**(181,245)**	**(187,510)**	**(29)**	**(187,539)**
2014年3月31日現在残高	**$ 170,176**	**$ 167,451**	**$ (581,118)**	**$ 153,196**	**$ 4,478,520**	**$ 4,388,225**	**$ 43,108**	**$ 4,431,333**

（注）日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2014年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル＝102円で換算しています。

Consolidated Statement of Cash Flows

連結キャッシュ・フロー計算書

	百万円		千米ドル（注）
	2014	2013	**2014**
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期利益	**¥ 29,458**	¥ 33,001	**$ 288,804**
減価償却費及び償却費	**5,109**	4,765	**50,088**
減損損失	**2,016**	2,931	**19,765**
受取利息及び受取配当金	**(2,584)**	(2,576)	**(25,333)**
支払利息	**14**	8	**137**
棚卸資産の増減額	**(1,038)**	(4,681)	**(10,176)**
売上債権及びその他の債権の増減額	**1,156**	(777)	**11,333**
仕入債務及びその他の債務の増減額	**997**	(825)	**9,775**
退職給付に係る負債の増減額	**515**	496	**5,049**
退職給付に係る資産の増減額	**1,035**	793	**10,147**
その他	**(93)**	(1,582)	**(912)**
小計	**36,585**	31,553	**358,676**
利息の受取額	**667**	963	**6,539**
配当金の受取額	**2,046**	1,786	**20,059**
利息の支払額	**(14)**	(8)	**(137)**
法人所得税等の支払額	**(10,862)**	(15,302)	**(106,490)**
営業活動によるキャッシュ・フロー	**28,422**	18,992	**278,647**
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	**(5,816)**	(5,224)	**(57,020)**
有形固定資産の売却による収入	**7**	0	**69**
無形資産の取得による支出	**(7,041)**	(2,383)	**(69,029)**
投資の取得による支出	**(31,353)**	(43,015)	**(307,382)**
投資の売却及び償還による収入	**51,526**	55,005	**505,157**
その他	**(398)**	(17)	**(3,902)**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**6,926**	4,365	**67,902**
財務活動によるキャッシュ・フロー			
配当金の支払額	**(19,073)**	(19,056)	**(186,990)**
非支配持分への配当金の支払額	**(3)**	(4)	**(29)**
長期借入金の返済による支出	**(515)**	(400)	**(5,049)**
長期借入れによる収入	**–**	300	**–**
短期借入金の純増減額	**(2)**	(203)	**(20)**
自己株式の取得による支出	**(42)**	(9)	**(412)**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**(19,636)**	(19,372)	**(192,510)**
現金及び現金同等物の増減額	**15,712**	3,985	**154,039**
現金及び現金同等物の期首残高	**89,117**	85,067	**873,696**
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	**69**	65	**676**
現金及び現金同等物の期末残高	**¥ 104,898**	¥ 89,117	**$ 1,028,412**

（注）日本円から米ドルへの換算は、便宜上、2014年3月31日現在のおおよその為替レートである1米ドル＝102円で換算しています。

Corporate Information
会社の概況

役員（2014年8月20日現在）

取締役

代表取締役 取締役社長	相良　暁	
取締役 副社長執行役員　開発本部長	粟田　浩	
取締役 専務執行役員　経営管理本部長	佐野　敬	
取締役 常務執行役員　研究本部長 兼 水無瀬研究所長 兼 研究提携統括部長	川澁和一十	
取締役 常務執行役員　営業本部長	藤吉　信治	
取締役 執行役員　経営調査室長	小野　功雄	
取締役 執行役員　筑波研究所長 兼 先端医薬研究部長	福島　大吉	
取締役（社外取締役）	加登　豊	同志社大学大学院ビジネス研究科 教授 バンドー化学株式会社 社外取締役
取締役（社外取締役）	栗原　潤	キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 関西学院大学総合政策学部 客員教授

監査役

監査役（常勤）	西村　勝義	
監査役（常勤）	手塚　道郎	
監査役（社外監査役）	間石　成人	弁護士　住友電設株式会社 社外監査役 大阪高速鉄道株式会社 社外監査役
監査役（社外監査役）	荒木　靖夫	公認会計士

執行役員

執行役員　メディカルアフェアーズ部長	松岡　昌三	
執行役員　東京第一支店長	市川　弘	
執行役員　事業戦略本部長	滝野　十一	
執行役員　営業副本部長 兼 営業企画統括部長	寺西　勝司	

会社概要（2014年3月31日現在）

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年（1717年）
設立	昭和22年（1947年）
資本金	17,358百万円
株主数	10,711名
従業員数	2,858名（連結）　2,608名（単体）

主要な事業所

本社

〒541-8564
大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号
TEL 06-6263-5670　FAX 06-6263-2950
（登記簿上の本店所在地）
大阪市中央区道修町二丁目1番5号

国内支店

札幌支店、仙台支店、東京第一支店、東京第二支店、
北関東支店、甲信越支店、横浜支店、名古屋支店、
京都支店、大阪支店、神戸支店、高松支店、
広島支店、福岡支店
（その他全国の主要都市に営業所などを設けています）

研究所

水無瀬研究所（大阪府）
福井研究所
筑波研究所（茨城県）

工場

フジヤマ工場（静岡県）
城東工場（大阪府）

国内子会社

東洋製薬化成株式会社
株式会社ビーブランド・メディコーデンタル

海外子会社

オノ・ファーマ・ユーエスエー インク（米国ニュージャージー州）
オノ・ファーマ・ユーケー・リミテッド（英国ロンドン）
韓国小野薬品工業株式会社（韓国ソウル特別市）

国内関連会社

株式会社ナミコス
東海カプセル株式会社

ホームページ

http://www.ono.co.jp/

小野薬品工業株式会社

VEGETABLE OIL INK

August 2014 Printed in Japan